PRIME MINISTER CUP

PMC
matchday program

JUFA Japan University Football Association

2013
8.11(Sun)

VOL.02　第37回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント ２回戦

真の大学日本一へ

PRIME MINISTER CUP

MIKASA　KIRIN キリンビバレッジ　Mizuno　DOSHISHA CORPORATION　mandom

ゴミは各自で
お持ち帰りください。

総理大臣杯の1回戦から準々決勝は
無料で観戦できます！

JUFA Kansai

発行：関西学生サッカー連盟
TEL 06-6268-6400
WEB http://www.jufa-kansai.jp/

J-GREEN堺・メインフィールド　15：30 KICKOFF　Reported by 風間徹也（読売新聞運動部）

福岡大学	vs	高知大学

今大会最多、出場30度目の福岡大はFW10,山崎凌吾（3年）ら1メートル80超の大型選手をそろえ、セットプレーに絶対の自信を持つ。4年ぶりの優勝を狙う乾真寛監督は「高さという強みを生かして戦う」と明快だ。
13年連続出場の高知大は“雪辱”に燃える。福岡大は2009年決勝で敗れた相手。FW15,植木二朗（4年）、FW10,有間潤（3年）の2トップを看板に、野地照樹監督は「相手のもろいところを突く」と意気込む。

J-GREEN堺・メインフィールド　18：00 KICKOFF　Reported by 藤田真則（読売新聞運動部）

慶應義塾大学	vs	関西学院大学

慶応義塾大は、特別指定選手としてJ1・FC東京でプレーするFW10,武藤嘉紀（3年）、同じくJ2・東京ヴェルディで試合に出場するMF20,端山豪（2年）ら前線のタレントが豊富で、その攻撃に注目が集まる。
関西学院大は1回戦から中2日だが、「一つ勝って、勢いに乗れたという気持ちで臨む」と成山一郎監督。札幌大戦はPK戦になったが、MF12,泉宗太郎（3年）の突破などから数多くの好機を作っており、好勝負が期待できそうだ。

Official Goods

第37回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント グッズ販売！

◎イヤホンジャック付ユニフォームストラップ

イヤホンジャック無
販売価格　500円

イヤホンジャックあり
販売価格　700円

◎記念タオル

販売価格　700円

◎公式プログラム

販売価格　1000円

販売は各会場入場ゲートにて。
ご来場の記念にぜひお買い求めください！

写真販売企画　～プロカメラマンが撮影した写真が購入できます～

この度、株式会社P&P浜松様のご協力によりインターネットでの写真販売が可能となりました。
・ご注文について
ご注文は、キャビネ写真（127㎜×180㎜）1枚600円の販売となります。
・販売期間
2013年8月17日（土）～2013年10月31日（木）　※8月17日より順次写真公開を予定
・ご購入方法
①検索サイトで「HCLフォトストア」と検索　https://phst.jp/hcl-photo/
②ログインフォームにID「PP0808」・パスワードに「50654」を入力
③最後に画面表示される赤いセキュリティコード5文字を入力しログインをクリック

インターネット販売に関するお問い合せ先	(株)阪神コンテンツリンク フォトストア事務局	06-6442-5205 (10:00～18:00 土・日祝休)
商品の内容に関するお問い合せ先	株式会社P&P浜松	0120-55-7979 (9:00～17:00 土・日祝休)

Match Preview 試合の見どころ

長居スタジアム　15:30 KICKOFF　Reported by 佐藤毅（読売新聞運動部）

大阪体育大学	vs	中央大学

全国大会優勝経験校同士の好カード。
一昨年の総理大臣杯を制した大体大だが、昨年は2回戦敗退。リーグ戦も8位に終わった危機感が200人を超える部員を一つにまとめてきた。FW9,伊佐耕平（4年）は大学トップクラスの得点能力。GK1,村上昌謙（4年）も安定感が増した。
中央大は前線から積極的にプレスをかける攻撃的なサッカーが持ち味。ドリブル力のあるFW10,澤田崇（4年）が攻撃の要。1メートル95の長身、守護神のシュミット・ダニエルはキックも1級品で、攻撃の起点としても期待される。

長居スタジアム　18:00 KICKOFF　Reported by 森田将義（フリーライター）

明治大学	vs	金沢星稜大学

関東第1代表の明治大学がいよいよ登場。4-4-2の基本フォーメーションで「いいディフェンスからいいオフェンスが」がモットー。そのチームを支えるのはMF6,水野輝（4年）、明治のダイナモだ。さらには、ジュビロ磐田に内定しているDF5,小川大貴（4年）がチームを支える。
対する金沢星稜大は「うちのサッカーは出来てないけど、失点0で凌げた事が良かった」とDF5,内田錬平（4年）主将が話すように初戦の収穫はチームが目指す“守備からのチーム作り”に一定の成果が見えた事。初戦の緊張感も解け、次戦は優勝候補の一角を担う明治大という事もあり、“挑戦者”という気持ちでリラックスできるはず。金沢星稜のらしさがどこまで出せるか期待したい。

長居第2陸上競技場　15:30 KICKOFF　Reported by 藤田真則（読売新聞運動部）

鹿屋体育大学	vs	法政大学

2年連続10回目の出場となる鹿屋体育大。昨年は初戦の駒大戦で逆転負けしており、今大会はリベンジに燃える。特別指定選手としてJ2・ロアッソ熊本でプレー経験があるDF5,坂田良太（4年）、DF4,代田敦資（4年）の両センターバックがチームを支える。
対する法大は4年ぶりの出場。関東リーグでは3季連続で2部に甘んじているだけに全国舞台での活躍を誓う。ユニバーシアード日本代表のFW14,松本大輝（4年）をはじめ、力のある選手がそろう。シーズン序盤は消極的なプレーもあったが、ここに来てチームの調子も上向いてきた。

長居第2陸上競技場　18:00 KICKOFF　Reported by 藤田真則（読売新聞運動部）

早稲田大学	vs	中京大学

早稲田大は1回戦で桃山学院大の堅守に苦しんだが、最後に勝ちきる強さはさすがの一言。全員が攻守にハードワークをこなすが、その中でもサイドバックの6,三竿雄斗（4年）の攻撃参加が試合の鍵を握る。
中京大は2010年の準優勝後は一昨年が初戦敗退、昨年はベスト8と今だ頂点に届いていない。今年は前線にFW10,南部健造（3年）、FW9,加藤翼（2年）ら決定力のある選手が並ぶ。昨季のインカレ王者にどれだけ通用するか楽しみだ。

キンチョウスタジアム　15:30 KICKOFF　Reported by 濱畑知之（読売新聞運動部）

流通経済大学	vs	仙台大学

流通経済大はMF6,富田湧也（3年）とMF25,古波津辰希（2年）が献身的な動きでチームを支え、非凡なパスセンスのMF7,中山雄登（4年）が司令塔を担う。左サイドの20,江坂任（3年）は強烈なシュートも魅力。相手によって戦い方を変える柔軟さも特長だ。
一方の仙台大はパス能力の高いMF10,熊谷達也（3年）が攻守の柱で、CBを務めるDF4,児玉昇（2年）も的確なパスを通してリズムを生み出す。小柄ながら前線でキープできるFW9,川島章示（1年）に素早くつなぎ、ボール保持率を高めて得点機を多く生み出したい。

キンチョウスタジアム　18:00 KICKOFF　Reported by 森田将義（フリーライター）

東京国際大学	vs	関西大学

「指定席はない。ちょっとでも悪かったら、代えていく」。前田秀樹監督の言葉通り、270人以上の部員数を誇る東京国際大の武器は高い競争力。スタメン、フォーメーションを固定せずに戦う手口は相手チームのスカウトを混乱に陥れることは間違いない。次戦の相手は関西大だが、「リーグもそうだけど、うちは後半から力が出てくる」というセオリーを上手く行かすことが出来れば、3回戦も見えてくるだろう。
対する関西の王者、関西大はセンターバックの23,寺岡真弘（4年）、左サイドバックのキャプテン6,都並優太（4年）の強靭なDF陣。中盤のゲームメーカー10,和田篤紀(3年）は一本のパスで流れを変える。昨年は2回戦で専修大に破れた。今年こそは関東勢に勝って2005年以来の優勝を狙う。

Match Review Result & Report

Reported by 藤田真則（読売新聞運動部）

関西学院大学 vs 札幌大学

2013年8月8日（木） 15:30キックオフ
会場/長居第2陸上競技場 天候/曇 入場者数/266人

関西学院大	1	0-2 1-1 4 PK 2	1	札幌大
50分 小幡元輝 （泉宗太郎・呉屋大翔）		得点 （アシスト）		14分 澤田恒（澤野康介）

関西学院大がGK21,一森純（4年）の活躍でPK戦を制した。両チームとも立ち上がりからシュート意識が高く、積極的にゴールを狙うが、先にスコアを動かしたのは札幌大。FW11,酒井遼太郎（4年）の左CKからのヘディングシュートはGKに防がれたが、こぼれ球をFW8,澤田恒（4年）が押し込んで先制した。「セットプレーは警戒していたが、キッカーがいいボールを入れてきた」と関西学院大の成山一郎監督。しかし、選手は慌てなかった。前半は中央でブロックを作ってボールをはね返す札幌大を攻めあぐねるも、後半はサイド攻撃から好機を演出。迎えた50分、右サイドからMF12,泉宗太郎（3年）がクロスを入れると、FW13,呉屋大翔（2年）がゴール前でつぶれ役となって相手DF陣を引きつけ、最後はMF20,小幡元輝（3年）が決めて追いついた。PK戦にもつれ込んだ勝負は、関西学院大は一森が2人目と4人目を止めて勝利を呼び込む。殊勲の守護神は「何とかチームを勝たせたかった」と振り返った。関西学院大は札幌大の粘りに苦しんだものの、前回大会は初戦敗退だっただけに、まずは上々のスタートを切った。

Photo:Naoki Morita

Reported by 藤田真則（読売新聞運動部）

桃山学院大学 vs 早稲田大学

2013年8月8日（木） 18:05キックオフ
会場/長居第2陸上競技場 天候/曇 入場者数/394人

桃山学院大	0	0-0 0-0	1	早稲田大
		得点 （アシスト）		65分 中田航平（三竿雄斗）

昨季の全日本大学選手権の覇者、早稲田大が貫禄を示した。前半から主導権を握り、何度も桃山学院大ゴールを脅かす。迎えた65分、右サイドからのクロスを早稲田大DF6,三竿雄斗（4年）がシュート。相手GKがセーブするも、主将のMF4,中田航平（4年）が詰めて均衡を破ると、これが決勝点となった。試合を振り返ると、攻める早稲田大に、守る桃山学院大という予想された展開が序盤から続いた。しかし、早稲田大の古賀聡監督は厳しい見方をした。「前半は『いつかは入るだろう』という感じの攻撃だった。1回のチャンスに懸けるんだという気持ちが欠けていた」。後半、選手にその思いが伝わったのか、決勝点のシーンは2人、3人と攻撃に加わった泥臭いゴールだった。一方、桃山学院大は押し込まれる時間が続いたことで体力を消耗した。「早大さんのサッカーに合わせてしまった」と楚輪博監督。ユニバーシアード日本代表のGK21,圍謙太朗（4年）をはじめ、粘りの守りを見せていたが、攻撃のアイデアが足りなかった。前々回の大会で大阪体育大に、前回は阪南大に敗れていた早稲田大。相手は違えど関西勢に雪辱した一戦だった。

Photo:Naoki Morita

★準幹事Presents

coming soon

第37回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント メッセージ企画

トモニタタカオウ ～あなたの想いを選手に届けよう～

PRIME MINISTER CUP 2013

監督・選手のメッセージ企画と同じように
メッセージを書いて写真を撮ろう！！
撮った写真は一般ゲートと選手入場口に掲示します！
応援メッセージを書いて選手と共に戦いましょう！！

一般ゲートにてブースをご用意しています！！
メッセージを専用用紙に書いていただき
写真を撮らせていただきます
一般ゲートにて皆様のお越しをお待ちしております!!

※尚、この企画は準々決勝より行わさせていただきますのでご了承ください。

Match Review Result & Report

Reported by 森田将義（フリーライター）

金沢星稜大学 vs 広島修道大学

「勝ってすみませんという感じです。サッカーっておもしろいなと。なんで勝ったのか分からないんですよ」。勝者のはずの金沢星稜大・小松崎保監督がそうしたのも仕方がない。11年前に現在の校名に改称して以来、初の全国大会。指揮官、選手ともに全国を知らない緊張感が試合にも表れ、「いつもと全然違うので、これが全国大会なのか。こんなにおかしくなっちゃうのかと思った」。DF5,内田錬平（4年）主将を中心とした堅守からカウンターを狙うはずが、相手も同じスタイルを狙った広島修道にボールを持たされてしまい、ボールロスからMF2,有下遼（4年）、FW10,宮原崇晃（3年）を中心とした速攻を立ち上がりから幾度となく浴び続けた。それでも、「予選の段階から、前半は0-0か0-1で行ければOK。後半が勝負という試合をしていた」（小松崎監督）とハーフタイムに自分たちの方向性を再確認した。後半の早い段階で、「能力はあるけど、本能のまま動いているので、スタートから使うとチームに迷惑がかかる」というスーパーサブのFW23,西原樹（1年）ら積極的に交代のカードを切って、反撃開始。主導権を掴み、仕掛けの回数が増え始めた85分。相手のクリアボールを高い位置で奪ったDF5,内田が素早く前線へスルーパス。相手DFの裏へ抜けたFW23,西原がGKとの1対1を冷静に流し込んだ。「キーパーが良い仕事をしてくれていたのでFWがやるしかないと思っていた。蹴った瞬間、“やべ、入れ！”と思った。ゴールまでがめっちゃ時間が長かった。入った瞬間、いい仕事が出来てホッとした」というルーキーの一撃で勝利を掴み、2回戦進出を決めた。

2013年8月8日（木） 15:30キックオフ
会場/J－GREEN堺・メインフィールド 天候/晴 入場者数/280人

金沢星稜大	1	0-0 1-0	0	広島修道大
85分 西原樹（内田錬平）		得点 （アシスト）		

Photo:Masayoshi Morita

Reported by 森田将義（フリーライター）

東京国際大学 vs 常葉大学浜松キャンパス

立ち上がりから、MF10,若井祥吾（3年）、MF14,上船利徳（3年）を起点に、左のMF7,佐藤領（3年）、右のDF2,伊東駿多（4年）の両サイドを積極的に走らせ、縦に速い攻撃を繰り出した東京国際大が主導権を掴む。上手くスローインとCKを獲得し、ゴール前に進出し、前半16分にはMF14,上船の右CKをFW9,福島が頭で合わせ、先制点を奪った。順調なスタートを切ったが、29分には判定を巡る審判との言い争いで試合が一時中断。これで平常心を失った32分にDF6,濱一誠（1年）のパスを受けたMF7,小野寺健人（4年）に決められて同点に追いつかれると、続く35分にもMF7,小野寺へのファールでPKを献上。MF10,前田陽平（3年）に決められ、逆転を許してしまう。しかし、後半になってからは「勝っている時に押していれば良かった」（MF10,前田）と反省した常葉大浜松に対し、「選手たちはリードされていても自分たちのプレーをしっかりやり続ければ点は入るだろうと思っていたと思う」（前田秀樹監督）と平常心を保っていた東京国際大。両者の違いはプレー面でも表れ、後半開始の笛が鳴ると同時に東京国際大が怒涛の反撃を開始する。それでも、なかなかゴールが奪えなかったが、後半21分。サイド攻撃から奪ったMF7,上船の左CKをFW4,加藤龍治（3年）が頭で合わせて、同点とすると、37分にはゴール前で奪ったボールをMF7,上船に預け左サイドへと展開。走りこんだ途中出場のFW12,赤崎俊太（2年）が中に入れたパスをDF6,鹿糠智正（4年）が右隅に流し込んで逆転に成功。2回戦進出を決めた。

2013年8月8日（木） 18:00キックオフ
会場/J－GREEN堺・メインフィールド 天候/晴 入場者数/110人

東京国際大	3	1-2 2-0	2	常葉大浜松
16分 福島遼（上船利徳） 66分 加藤龍治（上船利徳） 82分 鹿糠智正 （赤崎俊太・上船利徳）		得点 （アシスト）	32分 小野寺健人（濱一誠） 35分 前田陽平	

Photo:Masayoshi Morita

“GOODS PRESENT”

－実際に会場で試合を観て、プレゼントをゲットしよう！！－ 提供（株）マンダム

・各会場入場の際に、無料配布しているプレビューをお受け取りください。
・各試合終了後、会場アナウンスにて10名様分のお楽しみ番号を読み上げます。
・番号を読み上げられた方はゲートまでお越しください。素敵な景品をプレゼントいたします。
※プレゼントの引き渡しの際に、本プレビューが必要となりますのでプレビューは試合終了まで保管していただきますよう、よろしくお願いします。